

特別支援学校等

令和7年度

教育研究員研究報告書

知的障害教育

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究構想図	2
III	研究の視点	3
IV	研究仮説	3
V	研究方法	4
VI	研究内容	4
VII	研究の成果	15
VIII	今後の課題	15

研究主題

言語活動を通じて、主体的に他者と関わる力を 育むための指導の工夫

～困難さの背景要因を明らかにし、支援につなげるシートの活用～

I 研究主題設定の理由

文部科学省は、令和3年1月の中央教育審議会答申において、「令和の日本型学校教育」の目指す姿として、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」を提唱している。また、「東京都教育ビジョン(第5次)」(東京都教育委員会 令和6年3月)では、『未来の東京』に生きる子供の姿」として、自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができることが重要であると示している。

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編には「自己に対する知識やイメージは、様々な経験や他者との比較を通じて形成されていく。障害のある幼児児童生徒は、障害による認知上の困難や経験の不足等から自己の理解が十分でない場合がある。」とある。知的障害のある児童・生徒は、障害特性により、文脈や因果関係から相手の考えや状況を理解したり、自分の考えを整理して伝えたりすることに困難さがある。そのため、主体的に他者と関わることに苦手意識があり、協働的な学びにつながりにくい場合が散見される。

また、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の中で「失敗経験から人と関わることに自信がもてなかったり、周囲の人への依存心が強かったりすることなどが考えられる。こうした場合には、まずは自分の考えや要求が伝わったり、相手の意図を受け止めたりする双方向のコミュニケーションが成立する成功体験を積み重ね、自ら積極的に人と関わろうとする意欲を育てることが大切である。」と示されている。

このような状況を踏まえ、本研究では、言語活動において言語でのやりとりが課題となっている児童・生徒の困難さの背景要因を明らかにするとともに、その背景要因を踏まえた手だてによる適切な指導や支援を行うことが重要であるとした。具体的には、「困難さの背景要因を明らかにし、支援につなげるシート」(以下、「つなげるシート」という。)を作成し、「聞くこと」や「話すこと」に関する個々の困難さに合わせた支援を行うことにより、言語活動における協働的な学びの充実を図る。このことにより、知的障害のある児童・生徒が、自分の考えが伝わり、相手の意見を受け止める双方向のコミュニケーションが成立する成功体験を積み重ね、主体的に他者と関わる力を育むことができると考えた。

以上のことから、知的障害教育部会では、研究主題を「言語活動を通じて、主体的に他者と関わる力を育むための指導の工夫～困難さの背景要因を明らかにし、支援につなげるシートの活用～」と設定し、協働的な学びの実現を目指していく。

II 研究構想図

共通研究テーマ：全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

現状と課題	関連法令・施策等
<p>【現状】</p> <p>○知的障害のある児童・生徒は、障害特性により、文脈や因果関係から相手の考えや状況を理解したり、自分の考えを整理して伝えたりすることに困難さがある。そのため、主体的に他者と関わることに苦手意識があり、協働的な学びの実現につながらないことが多い。</p> <p>【課題】</p> <p>○コミュニケーションの困難さが生じる背景要因は、児童・生徒により様々であり、協働的な学びの実現のためには、その背景要因を明らかにする必要がある。</p>	<p>○特別支援学校小学部・中学部学習指導要領</p> <p>○特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編</p> <p>○東京都教育施策大綱（東京都 令和7年3月）</p> <p>○東京都教育ビジョン（第5次）（東京都教育委員会 令和6年3月）</p> <p>○言語活動の充実に向けて～教科の特性を生かした言語活動と指導計画～（東京都教職員研修センター 平成23年度）</p> <p>○教育研究員研究報告書 特別支援教育 特別支援学級部会（東京都教育委員会 平成27年度）</p>

研究主題 言語活動を通じて、主体的に他者と関わる力を育むための指導の工夫
～困難さの背景要因を明らかにし、支援につなげるシートの活用～

研究の視点

- 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編に記載された文言から、コミュニケーションにおける困難さの背景要因に関連するキーワードを抽出し、整理したシートを作成する。
- 「つなげるシート」を活用し、困難さに応じた適切な支援を行う授業実践・検証を行う。

研究仮説

- 「つなげるシート」を活用して児童・生徒の個々の困難さの背景要因を明らかにするとともに、背景要因を踏まえた手だてによる、適切な指導・支援を行うことで、主体的に他者と関わることができ、協働的な学びの実現につながるだろう。

研究方法

【基礎研究】	【実践研究】
<p>(1) コミュニケーションにおける困難さの背景要因や支援につながるキーワードを、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の文言から整理</p> <p>(2) 「つなげるシート」の作成</p>	<p>(1) 「つなげるシート」を活用して、指導内容・方法を検討</p> <p>(2) 授業実践（検証授業 3回） 小学校・中学校（特別支援学級）で実施</p>

検証の方法

- ・「つなげるシート」を用いた実態把握を行う。
- ・コミュニケーションを円滑に進めるため、実態に応じた支援を講じ、言語活動の充実を図る。

Ⅲ 研究の視点

1 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編に記載された文言から、コミュニケーションにおける困難さの背景要因に関連するキーワードを抽出し、整理したシートを作成

本研究では、知的障害のある児童・生徒の言語活動の充実を図るために、実態を把握し、適切な支援を行えるようにした上で活動を行う場を設定することが重要であると考えた。そのため、知的障害のある児童・生徒が言語活動を行う中での困難さの背景要因を探る方法として、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の中に記載されている6区分27項目の中から、支援を検討する上で手がかりとなる文言をまとめた。

具体的には、知的障害のある児童・生徒のコミュニケーションにおける困難さの背景要因に注目して、本研究では、「聞く・話す 実態把握チェックシート」（教育研究員特別支援教育部会研究報告書 平成27年）を一部改編し、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の内容を基に整理したシート「つなげるシート」を作成した。

「つなげるシート」では、児童・生徒の「聞く」と「話す」の観点から目標を定め、目標を達成する上での困難さの背景要因を、図1のように見いだせるシートにした。そして、それぞれの目標を達成するために、困難さの背景要因として考えられるものを複数設定し、関連する自立活動の項目と一致させた。さらに、その達成に向けた支援の方向性を特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の各項目の該当ページや支援のキーワードから抽出した。

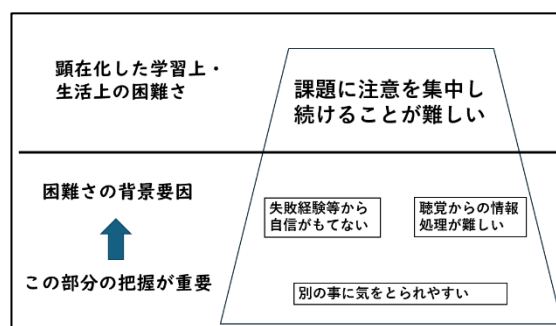


図1 「つなげるシート」のイメージ

2 「つなげるシート」を活用し、困難さに応じた適切な支援を行う授業実践・検証

本研究では、知的障害のある児童・生徒のコミュニケーションにおける困難さの背景要因を明らかにし、適切な支援を行うことに視点を当て、言語活動における児童・生徒同士の協働的な学びを促すことを目指した。具体的には、小学校特別支援学級、中学校特別支援学級において、言語活動を通じて主体的に学べる学習を取り入れた授業の実践・検証を行った。検証授業は国語科で、「つなげるシート」を活用することにより、対象児童・生徒の困難さの改善・克服を促すとともに主体的に他者と関わる協働的な学びを実現できるか、その有効性を確かめることにした。

Ⅳ 研究仮説

「つなげるシート」を活用して児童・生徒の個々の困難さの背景要因を明らかにするとともに、背景要因を踏まえた手だてによる、適切な指導・支援を行うことで、主体的に他者と関わることができ、協働的な学びの実現につながるだろう。

V 研究方法

1 基礎研究

- (1) コミュニケーションにおける困難さの背景要因や支援につながるキーワードを、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の文言から整理
- (2) 「つなげるシート」の作成
上記内容に取り組むにあたり、関連法令・施策に関する研究を行った。
ア 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編
イ 平成 27 年度教育研究報告書 特別支援教育「聞く・話す 実態把握チェックシート」

2 実践研究

- (1) 「つなげるシート」を活用して、指導内容・方法を検討
- (2) 授業実践（3回実施）

VI 研究内容

1 基礎研究

- (1) コミュニケーションにおける困難さの背景要因や支援につながるキーワードを、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の文言から整理
ア 言語活動に関する先行研究の整理
 - ・ 「言語活動の充実に向けて～教科の特性を生かした言語活動と指導計画～」(東京都教職員研修センター 平成 23 年度)によると、言語活動を構成する要素として「自己の思考」「伝え合い」「思考のまとめ」の三つの視点が定義されている。資料の中で「対話」は主に「伝え合い」という言葉で表現され、言語活動を充実させるための重要な要素の一つとして位置付けられている。「伝え合い」は、他者とのコミュニケーションを通して自分とは異なる多様な見方や考え方に触れる活動とされている。
各教科の指導において、上記に記載している言語活動の三つの視点を意図的・計画的に位置付けることで、児童・生徒の学びを深めることができるとされている。
 - ・ 特別支援学級に在籍する児童・生徒の「伝え合う力」の向上を目的として開発されたツールに、「聞く・話す 実態把握チェックシート」(教育研究員特別支援教育部会研究報告書 平成 27 年)がある。このチェックシートの主な目的は、児童・生徒の「聞くこと」と「話すこと」に関する実態を客観的に把握し、個々の困難さの背景要因に応じた適切な指導・支援につなげることである。このチェックシートでは、「聞くこと」に関して、「内容の理解」「注意持続」「聞き落とし」の 3 要素、「話すこと」に関して、「言語表現」「他者意識」「順序立て」の 3 要素に分類している。指導者がこの 6 要素における目標を確認することで、児童・生徒の全体像を捉え、どの部分に課題やつまずきがあるのか把握することができるものとなっている。本研究では、この「聞く・話す 実態把握チェックシート」を改訂し、それを活用した授業実践を行った。改訂のポイントは、児童・生徒が抱える「困難さの背景要因」と「支援のキーワード」を整理することである。「支援のキーワード」は、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編に記載されてい

る文言を基に作成することとした。

イ 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の分析

「聞くこと」と「話すこと」の困難さの背景要因と支援について、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編に記載されている内容を整理した。その中で「支援のキーワード」を自立活動の6区分27項目の内容を分析し、「聞くこと」「話すこと」に関係する「支援のキーワード」を抽出した。その結果、これらの課題は自立活動の内容「コミュニケーション」の区分に関する項目だけでなく「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」といった他の区分にも関連する項目があることを確認できた。

したがって、「聞くこと」「話すこと」の課題解決を図る指導においては、児童・生徒一人一人の実態に応じ、自立活動における複数の区分・項目を組み合わせ手だてを検討する必要がある。また、同じ背景要因であっても、関連する自立活動の区分・項目が複数あることも確認できた。

(2) 「つなげるシート」の作成

上記(1)で得られた知見及び「聞く・話す 実態把握チェックシート」(教育研究員特別支援教育部会研究報告書 平成27年)を基に、「つなげるシート」を作成した。シートの活用を通して、児童・生徒のコミュニケーションにおける困難さの背景要因を適切に捉え、学習や生活の場面において、根拠に基づいた効果的な支援を行えるよう検討を重ねた。

「つなげるシート」は、先行研究で作成された「聞く・話す 実態把握チェックシート」にある目標に準拠し、その目標達成へ向かう際に想定される困難さの背景要因について検討できる資料となっている。シート内の「目標」の隣の列には児童・生徒の困難さの背景にあるものとして考えられる要因を記載した。また、ここで記載した困難さの背景要因が特別支援学校学習指導要領解説自立活動編のどの区分・項目に該当するのかについて、対応するページ番号と関連する支援のキーワードも併せて示した。

これにより、困難さの背景要因を分析的に捉え、学習指導要領の内容に基づいた、根拠のある指導や支援を行うための手がかりを得られるようにした。

「つなげるシート」の使い方として、まず、言語活動における児童・生徒の目標をシートの中から設定する。各目標には、児童・生徒に顕在化している困難さの背景要因が記載してあり、その中からどの要因が該当するか選択し、該当する「支援のキーワード」を参考に授業場面で児童・生徒に行う個別の支援を検討していく。「支援のキーワード」は目標ごとに複数示してあり、更に詳しく支援内容・方法を確認したい場合は、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の該当ページを参照し、手だてを検討することができる構成となっている。

困難さの背景要因を明らかにし、支援につなげるシート

児童・生徒名	学校名	学校
記入者名	学年・学級	日
	記入日	年 月 日

【聞く】

No	目標	困難さの背景要因	自立活動編ページ	支援のキーワード
1	初めて聞く言葉を覚え、使用する。	語彙が少なく、話されている単語などの理解が難しい。 【心(3)】 聞いた内容が複数の項目を含むと、覚えることが難しい。 【心(2)(5)】 【心(3)】	P96 P94, 100 P96	ICT機器の活用 ・絵・写真と言葉の意味付け ・視覚的な手掛かりの活用 ・聞き返す方法に関する支援 ・ICT機器の活用 ・聞き返す方法に関する支援
2	一般的な会話の速度や、やや早口での話を理解する。	語彙が少なく、話されている単語などの理解が難しい。 聞き取った内容を理解するまでに時間を要する。 【心(4)】【心(2)(5)】 聞き取る機会が少なく、集中して話の内容を聞き取るのが難しい。 【環(2)】 相手の話に興味がない。 【心(1)】【心(3)】	P96 P94, 97, 100 P75 P67, 92	ICT機器の活用 ・絵・写真と言葉の意味付け ・分らないときの尋ね方 ・内容をまとめたながら聞く支援 ・音量を調節 ・視覚的な手掛かりの活用 ・視線を合わせる ・具体物や視覚的情報
3	質問されたことに適切に答えることや、指示されたことを理解し、行動する。	語彙が少なく、話されている単語などの理解が難しい。 質問の意図や指示された内容が理解できていない。 【心(2)】【心(1)(2)】 曖昧な表現や、行間を読むことが苦手である。 【環(5)】 抽象概念が弱く、形容詞の表現や感情に関する表現等の理解が難しい。 【環(5)】	P96 P69 P92, 94 P81 P81 P75 P94, 100	ICT機器の活用 ・絵・写真と言葉の意味付け ・視覚的な手掛かりの活用 ・生活上の場面を活用 ・実物や写真などの活用 ・手順表の活用 ・順序や時間、量の概念等を形成
4	原因と結果等の話題の関係を理解する。	語彙が少なく、話されている単語などの理解が難しい。 文脈を読み解くことが難しい。 想像力することが難しい。 【心(4)】	P96 P94 P97	ICT機器の活用 ・絵・写真と言葉の意味付け ・内容をまとめたながら聞く支援 ・分らないときの尋ね方
5	相手に意図を向け、話を聞く。	話の理解が難しい。 興味がない。 【心(1)】【心(2)】 集中し続ける力が弱い。 【環(2)(5)】	P94 P96 P67 P75 P81	視覚的な手掛かりを活用 ・絵・写真と言葉の意味付け ・話を聞く態度の形成 ・児童・生徒に合った注意集中の方法 ・手順表の活用
6	個別だけでなく、集団場面においても話を聞く。	自分事として捉えることが難しい。 【心(2)】【環(5)】 【心(2)】 集団場面での不安や緊張を伴う。 【心(1)】 言語理解の困難さがある。 【心(2)(3)】	P69 P81 P94 P94 P96 P96	具体的なスキル ・生活上の場面を活用 ・話を聞く態度の形成 ・環境の改善 ・視覚的な手掛かりを活用 ・実体験への結び付け

7	課題に注意を集中し続ける。	聴覚からの情報処理が難しい。 【環(2)】 失敗経験等から自信がもてない。 【心(1)】 別のことに気をとられやすい。 【環(2)】	P75 P60 P75	他感覚の併用 ・自分のよさへの気づき ・児童・生徒に合った注意集中の方法 ・視覚的な手掛かりを活用 ・不安や緊張の原因を知る ・環境の改善 ・動作の習得 ・実体験への結び付け
8	落ち着いて相手と話しをする。	人間関係について不安がある。 【心(1)】 姿勢保持が難しい。 【身(5)】 話の内容が分からない。 【心(3)】	P60 P90 P96	不安や緊張の原因を知る ・環境の改善 ・動作の習得 ・実体験への結び付け
9	聞いたことを覚えておく。	記憶に関する課題がある。 【環(2)】 注意の持続や情報の選択が難しい。 【心(2)】 不安感がある。 【心(1)】	P75 P62 P60	視覚的な手掛かりを活用 ・見直しをもたせる ・不安の原因を知る ・環境の改善
10	複数の指示を聞いて、適切な行動をとる。	記憶に関する課題がある。 【環(2)】 言語理解の低さから指示を理解することが難しい。 【心(3)】 経験不足からの不安がある。 【心(1)】	P75 P96 P60	視覚的な手掛かりを活用 ・絵や写真と言葉の意味付け ・実体験への結び付け ・得意なことを生かしてやり遂げる経験の積み重ね
11	長い文を聞いて、それを復唱する。	記憶に関する課題がある。 【環(2)】 注意の持続が困難で、注目する対象が変動しやすい。 【環(2)】 言語理解の困難さがある。 【心(3)】	P75 P75 P96	視覚的な手掛かりを活用 ・注目すべき箇所を色分け ・手で触れるなど他の感覚も使う ・ICT機器の活用 ・絵や写真と言葉の意味付け ・実体験への結び付け
12	質問や指示されたことに合わせた返答や行動をする。	語彙が少なく、話されている単語などの理解が難しい。 【心(3)】 質問の意図や指示された内容の理解が難しい。 【心(2)】【心(2)(5)】 曖昧な表現や、行間を読むことが苦手である。 【環(5)】 抽象概念が弱く、形容詞の表現や感情に関する表現等の理解が難しい。 【環(5)】 聞いた内容が複数の項目を含むと、覚えることが難しい。 【環(2)】【心(2)(5)】	P96 P69 P94 P100 P81 P81 P75 P94 P100	ICT機器の活用 ・絵や写真と言葉の意味付け ・実体験への結び付け ・気持ちを表した絵カードの活用 ・聞く態度の形成 ・視覚的な手掛かりを活用 ・興味・関心のあること、生活上の場面を活用 ・実物や写真などを使い、概念の形成につなげていく ・手順表の活用 ・順序や時間、量の概念等を形成 ・視覚的な手掛かりを活用 ・相手の表情への注目

聞き落とし

※自立活動の6区分を、以下の形に略して記載
 【健】…健康の保持 【心】…心理的な安定
 【人】…人間関係の形成 【環】…環境の把握
 【身】…身体の動き 【心】…コミュニケーション

【話す】

No	目標	困難さの背景要因	自立活動編 ページ	支援のキーワード
13	適切な速さで話す。 <input type="checkbox"/>	対人関係における緊張や記憶の保持などの困難さがある。【心(4)】 心理的に緊張しやすく、不安になりやすい傾向がある。【心(1)】	P97 P60	・視覚的・聴覚的な代替手段の選択・活用 ・言語以外の絵カードやメモ、機器等の活用
14	話すときに豊富な種類の言葉を使える。 <input type="checkbox"/>	言葉が少なく、【心(1)】(3) 信頼関係が構築できていない。【人(1)】	P92, 96 P67	・興味・関心に合った教材の活用 ・言葉のやりとりの楽しさ
15	助詞を適切に使用して話す。 <input type="checkbox"/>	適切な言葉の使い方を十分に習得できていない。【心(3)】(5) 言葉の少なさや表現する力が十分に育っていない。【心(1)】	P96 P100 P92	・短い文からの理解 ・状況に応じた会話の経験の蓄積
16	具体的な言葉を使って話す。 <input type="checkbox"/>	話すことへの不安感がある。【心(3)】 【人(1)】	P64 P67	・相手に伝えたい内容を整理しながら表現する経験の蓄積 ・相談することのよさを実感できる支援
17	抑揚をつけて、声の大きさを話す。 <input type="checkbox"/>	会話の内容や周囲の状況を読み取ることが難しい。【心(5)】 自己理解が難しく、調整力に課題がある。【人(3)】	P97 P70	・写真や手帳表、読み上げ機能、マイクなどマップなどの手掛かり ・成就感を味わえる課題設定
18	相手のことを意識して話す。 <input type="checkbox"/>	失敗経験から人と関わることに自信がもてない。【心(3)】 場や相手の状況を的確に把握することが難しい。【心(5)】	P64 P100	・自己理解、自己受容、意欲の向上 ・受け止めた内容の確認方法 ・相手の感情への注目 ・内容をまとめる力
19	相手の質問が終わってから話す。 <input type="checkbox"/>	他者の意図や感情を理解し、場に応じた適切な行動を取ることが難しい。【人(2)】 集団に参加するための手順やままりを理解することが難しい。【人(4)】 自己調整力が弱く、状況理解が不十分である。【人(3)】 不安や焦り、見通しのなさ、承認欲求から口を挟んでしまう。【心(1)】	P69 P71 P70 P60	・言葉や表情から相手の気持ちを推測(SST) ・生活上の様々な場面を想定して指導(SST) ・質問の仕方 ・行動と出来事の原因関係の明示 ・情緒の安定を図る、クールダウン ・自己理解

No	相手の感情や立場を理解する。	相手への認識が十分でない。【人(1)】	P68	信頼関係の構築 ・やりとりのパターン化 ・繰り返しの指導 ・生活上の様々な場面を想定して指導(SST) ・具体的な方法を身に付ける ・気持ちを表した絵カード ・認知発達や社会性の育成 ・場所や場面の变化 ・教師と一緒に活動 ・写真や手帳表 ・音声出力などの代替手段 ・話す場を再現し、経験を積む ・気持ちや意図を日記や作文で交換 ・動かしや期待、賞賛 ・手帳表を活用 ・本人が容易にできる活動設定 ・小集団での話し合い活動 ・予定表を書きつけて確かめる ・時間帯や回数をおおらかに決めめる ・個別的な場面や安んずる小集団 ・適切な言葉を使うゲーム等 ・行動と出来事の原因関係を図示 ・実現可能な目当てや点検表の振り返り ・注目するべき箇所を色付け ・図や線を使って効果的に表現 ・日常的に報告の場面設定 ・気持ちを考えを書きながら整理 ・絵画や造形活動、ごっこ遊びや模倣 ・ICT機器で見る力や聞く力を活用 ・他者の意見を聞く小集団活動
20	<input type="checkbox"/>	言葉や表情、身振りなどから相手の思いや感情を読み取れない。【人(2)】 相手の意図が理解できない。【心(1)】	P69 P93	
21	<input type="checkbox"/>	心理的な圧迫により体が勝手に反応し、声が出してしまう。【心(2)】 緊張や記憶保持の困難さがある。【心(4)】	P62 P62	
22	<input type="checkbox"/>	課題や活動を順序立てる。【心(2)】 課題や活動への理解がないため、意欲が低い。【環(5)】 事柄の優先順位が定まらない。【人(3)】	P81 P70	
23	<input type="checkbox"/>	見通しがもてていない。【心(2)】 相手の気持ちを想像することが難しい。【人(2)】 目的に沿って行動を調整することが苦手である。【人(3)】	P62 P69 P70	
24	<input type="checkbox"/>	情報の適切に処理することが難しい。【環(2)】 話合いの流れの理解が難しい。【人(3)】 話合いのスピードについていけない。【人(4)】 負けて嫌いで話合いの折り返いがつけられず、自分の考えを曲げられない。【人(2)】	P75 P70 P71 P69	

※自立活動の6区分を、以下の形に略して記載

- 【健】…健康の保持 【心】…心理的な安定
- 【人】…人間関係の形成 【環】…環境の把握
- 【身】…身体の動き 【心】…コミュニケーション

2 実践研究

(1) 「つなげるシート」を活用して、指導内容・方法を検討

「つなげるシート」の活用方法は、主に二つある。

第一は、授業者が「児童・生徒の困難さの背景要因が明確な場合のアプローチ」である。これは、言語活動における「聞くこと」「話すこと」に関するそれぞれの要素の中から、授業を計画する段階で、児童・生徒への支援を整理する際に「つなげるシート」を活用する方法である。この場合、言語活動における目標や支援の手だてとなるキーワードを得ることができる。

例えば、「聞くこと」に課題がある児童については、「内容の理解」「注意持続」「聞き落とし」のいずれに困難さがあるのかを検討する。その中で、図2の「内容の理解」に困難が見られる場合は、「つなげるシート」に示した目標の中から該当するものを選択する。その上で、困難さの背景要因を検討し、背景要因を明らかにした上で支援の方向性を決定する。さらに、「つなげるシート」に記載されている特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の該当ページや支援のキーワードを参照することで、根拠に基づいた指導内容や方法を導き出すことができる。

【聞く】		No	目標	困難さの背景要因	自立活動編 ページ	支援のキーワード					
	内容の理解										
□	1	初めて聞く言葉 を覚え、使用 する。	語彙が少なく、話されている単語などの理 解が難しい。【コ(3)】 聞いた内容が複数の項目を含むと、覚える ことが難しい。【コ(2)(5)】 話が長くなると、聞いた内容の理解が難し い。【コ(3)】	P96 P94,100 P96	・ICT機器の活用 ・絵・写真と言葉の意味付け ・視覚的な手掛かりの活用 ・聞き返す方法に関する支援 ・ICT機器の活用 ・聞き返す方法に関する支援						
						□	2	一般的な会話 の速度や、や や早口での話 を理解する。	語彙が少なく、話されている単語などの理 解が難しい。【コ(3)】 聞き取った内容を理解するまでに時間を要 する。【人(4)】【コ(2)(5)】 聴覚に過敏さがあり、集中して話の内容を 聞き取ることが難しい。【環(2)】 相手の話に興味がない。【人(1)】【コ(1)】	P96 P94,97, P100 P75 P67,92	・ICT機器の活用 ・絵・写真と言葉の意味付け ・分からないときの尋ね方 ・内容をまとめながら聞く支援 ・音量を調節 ・視覚的な手掛かりの活用 ・視線を合わせる ・具体物や視覚的な情報

図2 「つなげるシート」の「聞くこと」の要素から支援の検討を行う場面

第二は、「児童・生徒の困難さの背景要因が不明確な場合のアプローチ」である。これは、対象の児童・生徒について全ての要素を確認し、「聞く・話す」に関する困難さを把握して支援の方向性を検討する方法である。この場合は、児童・生徒に身に付けさせたい「目標」から「つなげるシート」を参照することで、複数の背景要因から、選択して検討することができる。また、支援の手だてを学習指導要領の文言や支援のキーワードから確認し、根拠をもった指導を行うことができる。

目標が同じであっても、児童・生徒によって背景要因は様々であり、支援の方法は異なっている。実際の児童・生徒の実態に合わせて柔軟に活用し、適切な支援につなげていくことが必要である。

以上を踏まえ、本研究では、作成した「つなげるシート」を用いて指導内容や方法を検討しながら授業を実践した。

(2) 授業実践

ア 検証授業① (小学校 知的障害特別支援学級)

(7) 授業の概要

国語科 学習指導案			
対 象：第4学年 5人			
単 元 名：「スイミー劇場へようこそ！」			
単元の目標：場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、考えたことをすすんで友達に伝えることができる。			
評価規準：			
ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度	
・身近なことを表す語句の意味を理解し、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	・場面の様子に着目して、登場人物の行動やその理由を具体的に想像し、表現している。	・登場人物の行動やその理由など、考えたことをすすんで友達に伝えようとしている。	
指導計画 (13 時間扱い)：			
時	目標		
第一次 (第1時～第2時)	・物語について知り、単元の学習に見通しをもつ。 ・初めて読んだ感想を伝え合う。		
第二次 (本時) (第3時～第10時)	・各場面の内容を理解する。 ・登場人物の行動やその理由を想像し、伝え合う。		
第三次 (第11時～第13時)	・発表相手や方法を話し合う。 ・発表会を開き、単元について振り返る。		
授業の展開 (第二次 全13時間中の第4時間目)：			
	○主な学習内容・活動	指導上の留意点・配慮事項	評価方法
導入 5分	○前時を振り返り、本時のめあてと学習の流れを確認する。	・本時の流れを掲示する。	
展開 30分	○音読をする。 ・語句を確認し、順番に読む。 ○役割演技をし、スイミーの気持ちを考える。★ ○個別課題に取り組む。★ ・ワークシートに取り組む。	・写真や動画、動作とつなげて語句を確認できるようにする。 ・児童同士で話し合っ決められた場面を価値付ける。 ・実態に応じて、参加の方法を教員と相談できるようにする。	・行動観察 ・ワークシート
まとめ 10分	○スイミーの気持ちを発表する。 ○本時の学習を振り返り、次時の学習について確認する。	・児童を称賛する言葉を掛ける。 ・次時の場面について、挿絵を見て期待感をもてるようにする。	

★の箇所が「つなげるシート」を活用して手だてを講じた部分

(イ) 研究について

本単元では、5人のうち2人の児童を対象とし検証授業を行った。「つなげるシート」を活用した結果、両児童とも「話すこと」の「言語表現」に困難さがあること、目標は一致するが、背景要因はそれぞれ違いがあることが明らかになった。その上で、「つなげるシート」に記載されている内容を根拠に各児童の実態に応じた手だてを検討した。

	自立活動における指導の目標	困難さの背景要因	手だて
A 児	【話す】 具体的な言葉を使って話すことができる。(16)	話すことへの不安感がある。 【心(3)】 【人(1)】	・「小声で話す」、「書いて伝える」など、発表方法を担任と相談して決められる場を設定する。 ・授業の導入で、言葉を使ったゲームを行い、友達と話す経験を積めるようにする。
B 児	【話す】 具体的な言葉を使って話すことができる。(16)	語彙の少なさや表現する力が十分に育っていない。 【コ(1)】	・「風にゆれる」などの語彙を、写真や動画、動作とつなげて確認できるようにする。 ・登場人物の行動と気持ちを分けて整理するプリントを個別に準備し、書きながら考えを整理できるようにする。

(ウ) 結果

話すことへの不安感が強いA児については、発表で行う役割の選択肢を事前に教員と一緒に考え、その中から選んで発表する機会を毎時間設定した。検証授業の発表場面では、「小声で話す」ことを選択することで、安心して考えを伝えることができた。また、授業の導入では、「お話爆弾ゲーム」や「ロパクスピーチ」など、言葉でやり取りするゲームを楽しむことができるようになり、話すことへの抵抗感が少なくなった様子が見られた。語彙が少なく、表現することに苦手意識があると考えられるB児については、様々な情報と結び付けながら語彙の確認を丁寧に行った。また、考えを整理するプリントを個別に用意し、発表で相手に伝える内容を焦点化できるようにした。以前よりも聞き手に伝えることを意識し、分かりやすく発表することができるようになった。

(エ) 考察

本授業では、児童の困難さの背景要因を明確化し、その内容に応じて自立活動の視点から適切な手だてを講じることを試みた。「つなげるシート」を活用すると、「具体的な言葉を使って話す」という目標は同じであっても、背景には異なる要因があることが分かった。必然的に講じるべき手だても異なることが理解でき、それぞれの困難さの背景要因に応じた支援を検討・実践することができた。結果として、対象児童が話すことへの抵抗感が少なくなったり、聞き手に分かりやすく話そうとしたりする姿が見られるなど、言語活動を通した他者との関わりにおいて肯定的な変容が見られた。このことは、教科の目標を達成するという点においても効果的であった。

以上のことから、「つなげるシート」は児童理解を精緻化し、具体的な手だてを導くために有効であると考えられる。

イ 検証授業② (小学校 知的障害特別支援学級)

(7) 授業の概要

国語科 学習指導案

対 象：第1学年～第3学年 5人

単 元 名：「ことばのキャッチボールをしよう」

単元の目標：自分が経験したことや思いを伝えたり、相手が伝えたいことを落とさないように集中して聞いたりすることができる。

評価規準：

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・経験や思いを伝えたり、大事なことを落とさないように聞いたりする。	・経験や思いから伝え合うために必要な事柄を選んで発表している。	・経験や思いを伝えたり、相手が伝えたいことを聞いたりしようとしている。

指導計画(21時間扱い)：

時	小单元名	小单元の目標
第一次 (第1時～第4時)	夏休みの思い出ベスト3を発表しよう	経験したことを振り返り、思い出を言葉にして伝えることができる。
第二次 (第5時～第9時)	3ヒントクイズを楽しもう	身近な言葉につながる3つのヒントを伝えることができる。
第三次 (第10時～第15時)	先生にインタビューをしよう	先生が伝えたいことを落とさないように聞き、思いを伝えることができる。
第四次(本時) (第16時～第21時)	宿泊学習の思い出ベスト3を発表しよう	経験したことを伝えたり、相手が伝えたいことを聞いたりすることができる。

授業の展開(第四次 全21時間中の第19時間目)：

	○主な学習内容・活動	指導上の留意点・配慮事項	評価方法
導入 5分	○前時の振り返りをする。 ・本時の学習のめあてや流れを確認する。★	・前時の学習で児童が書いた思い出ベスト3カードを見せ、前時の学習活動を振り返りやすくする。	
展開 35分	・宿泊の思い出ベスト3を発表する。★ ・発表を聞き、より具体的な経験や思いについて質問する。★	・声の大きさ表を使うようにする。 ・ヒントカードを使い、すべての児童が質問できるようにする。	・観察
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。	・めあてを基に友達と称賛し合えるようにする。	

★の箇所が「つなげるシート」を活用して手だてを講じた部分

(イ) 研究について

本単元では、5人のうち1人の児童を対象とし検証授業を行った。「つなげるシート」を活用した結果、「聞くこと」では「注意持続」、「話すこと」では「言語表現」に困難さがあることが明らかになった。その上で、「つなげるシート」に記載されている内容を根拠に手だてを検討した。

自立活動における指導の目標	困難さの背景要因	手だて
【聞く】 個別だけでなく、 集団場面においても話を聞く。(6)	集団場面での不安や緊張を伴う。 【心(1)】	・黒板にめあてや流れなどを提示する。 ・座席配置に配慮する。
【話す】 具体的な言葉を使って話す。(16)	話すことへの不安感がある。 【心(3)】【人(1)】	・発表カードに写真を貼り、みんなの前でも安心して発表できるようにする。 ・「誰と?」「どんな?」「何を?」を書かれたヒントカードを活用する。

検証授業では、本児の経験したことを題材に、宿泊学習で使用したイラストや思い出の写真を活用した。児童が自分の経験を想起し、状況に応じた具体的な言葉を使って、話すことができるようにした。また、授業展開を一定の流れにすることで集団場面でも安心して学習に取り組み、成功経験を積み重ねることができるようにした。

(ウ) 結果

導入では、児童が前時に書いた思い出ベスト3カードを見せたことで、前時の学習内容を振り返り、笑顔でうなずく様子が見られた。展開では、自分が経験したことを写真で振り返ることで、すすんで友達に発表した。質問する場面では、困ったときに「誰と?」「どんな?」「何を?」などの質問が書かれたヒントカードを場面に応じて使用し、具体的な質問をすることができた。また、掲示物を精選し、教室の前面や側面に貼らないようにするなど刺激を調整したり、座席配置に配慮したりして学習環境を改善したことで、最後まで落ち着いて取り組んだ。まとめでは、めあてと学習内容を振り返り、成功経験を積み重ね、活発な話し合い活動を行うことができた。

(エ) 考察

言語活動における伝え合いの場面で「つなげるシート」を活用し、導き出された手だてを講じることにより、児童が自分の経験や思いを伝えたり、相手が伝えたいことを聞きもらさないように集中して聞いたりする様子が見られた。また、児童が自分の経験したことについて相手に伝えることができた。

以上のことから、「つなげるシート」を活用して手だてを講じたことは、児童が安心して活動に取り組み、主体的に他者と関わる力を伸ばすことに有効であると考えられる。

ウ 検証授業③ (中学校 知的障害特別支援学級)

(7) 授業の概要

国語科 学習指導案			
対 象：第1学年～第3学年 7人			
単 元 名：「こまを楽しむ」(光村出版三年上)			
単元の目標：段落の役割や中心となる語を整理しながら内容を理解し、自らの考えをまとめ、主体的にグループで話し合うことができる。			
評価規準：			
ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> 段落の役割について理解している。 こまの種類と楽しみ方などを捉え、全体と中心を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体を「はじめ」「中」「終わり」で捉えている。 文章の中心となる語や文を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> グループでの話し合いの中で自らの考えを伝え、意見をまとめようとしている。 	
指導計画 (7時間扱い)：			
時	主な学習内容・活動		
第一次 (第1時～第3時)	<ul style="list-style-type: none"> 「問い」に対する「答え」を探し、こまの種類と楽しみ方がどのように書かれているかを捉え、筆者の主張を捉える。 		
第二次 (第4時～第5時)	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの仕方を理解する。 生活単元学習の中で実施する集会(こま大会)について一人ずつ案を考える。 		
第三次(本時) (第6時～第7時)	<ul style="list-style-type: none"> こま大会に向けておおまかなことを話し合いで決める。 こま大会の細かい内容を決める。 		
授業の展開 (第三次 全7時間中の第7時間目)：			
	○主な学習内容・活動	指導上の留意点・配慮事項	評価方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習の流れや目標の確認 ○前時の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの仕方を前時のプリントを使いながら確認する。 	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き方ミニゲーム ○こま大会で行う活動について考える。 一人ずつワークシートに考えを記入する。★ グループで、ワークシートを基に話し合いを行う。★ 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に確認した話し合いのルールを掲示する。 注目すべき箇所を色分けしたり枠囲みで示したりしたプリントを使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 ワークシート
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返り ○次回の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いにおけるよかったところを確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察

★の箇所が「つなげるシート」を活用して手だてを講じた部分

(イ) 研究について

本単元では7人のうちの1人の生徒を対象とし検証授業を行った。「つなげるシート」を活用した結果、「聞くこと」では「注意持続」、「話すこと」では「順序だて」に困難さがあることが明らかになった。その上で、「つなげるシート」に記載されている内容を根拠に、手だてを検討した。

自立活動における指導の目標	困難さの背景要因	手だて
【聞く】 相手に意識を向けて話を聞く。(5) 課題に注意を集中し続ける。(7)	集中し続ける力が弱い。【環(2)】 別のことに気をとられやすい。 【環(2)】	・必要な教材のみを机に出すよう個別に声を掛ける。 ・授業の導入時にペアでテーマに沿って話す活動を行う際に、「復唱」「あいづち」など聞き方の参考になるカードを渡し、円滑な話合いができるようにする。
【話す】 事物の因果関係を理解する。(23)	相手の気持ちを想像することが難しい。 【人(2)】 目的に沿って行動を調整することが難しい。【環(2)】	・注目すべき箇所を色分けしたり枠囲みで示したりしたプリントを使用する。 ・「話合いのルールを守る」「相手の意見を否定しない」等の話合いを行う際のポイントを生徒の見えるところに掲示する。

(ウ) 結果

検証授業では、生徒4人が1グループになり話合いを行った。対象の生徒は当初、相手に意識を向けて話を聞くことや注意を集中し続けることが難しかったが、個別に相手の話を聞く際のポイントを示したカードを使用することにより、徐々に相手の話をうなずきながら聞いたり、話題に沿って意見を述べたりする姿が見られるようになった。また、話合いの中で相手の意見を「～ということですね」と復唱するなど、意欲的に参加する様子が見られた。

(エ) 考察

本授業では、「つなげるシート」を活用して導き出された手だてを講じたことにより、話合い活動の場面において対象生徒が主体的に取り組む姿が見られ、相手の話にうなずきながら耳を傾けるなど、相手に意識を向けて話を聞こうとする様子が見られた。困難さの背景要因に応じた支援を実践することにより、言語活動を通じた他者との関わりにおいて肯定的な変容につながるということが分かった。さらに、話合い以外の場面でも積極的に学習に参加する様子が見られるなど、学習意欲の向上も認められた。

以上のことから、「つなげるシート」を活用して背景要因を明確化しそれに基づいた支援を行うことは、主体的に他者と関わる力を育む上で有効な手だてであると考えられる。

VII 研究の成果

1 「つなげるシート」の活用について

検証授業では、「つなげるシート」を活用することにより、児童・生徒の困難さの背景要因を踏まえた手だてを導き出すことができ、どの授業においても適切な指導・支援につながった。

「つなげるシート」には特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の内容に基づく支援のキーワードと根拠となるページ番号が記載されている。このシートを活用することで、児童・生徒の背景要因に応じた支援を行うことが可能となった。また、授業実践の過程において、児童・生徒の顕在化している困難さよりも、背景要因に注目する必要があることをより意識し、それに応じた支援を講じることにもつながった。更に、「つなげるシート」という児童・生徒の実態把握に関する共通した枠組をもつことで、教員同士が児童・生徒の実態や課題を共有し、支援方針について理解を深めることができた。

2 児童・生徒の変容について

「つなげるシート」を活用し、言語活動において適切な支援を行うことで、児童・生徒が安心して授業に参加する様子が見られた。また、授業の中で他者とのコミュニケーションにおける成功体験を積み重ねることで、主体的に他者と関わろうとする意欲や態度が見受けられるようになった。このことにより、支援を受けた児童・生徒と周囲の関わり方の変化が生まれ、互いの考えや思いを尊重し、協働的な学びの実現につながった。

VIII 今後の課題

1 継続的な指導実践や指導における「つなげるシート」の妥当性や有用性の検証

本研究を通じて、特別支援学級における「つなげるシート」の有効性は確認されたものの、主となる背景要因をどの要素とするか判断が難しいケースも見られた。また、本研究は短期間・少数回の授業実践を基に考察を進めたが、指導の妥当性や有用性をより確かなものとするためには、長期的かつ継続的な指導実践が不可欠である。今後は、蓄積される実践データを基に、内容を随時見直し、修正・改善を進めていくことが重要である。

2 実践対象の充実

発展的な活用に向け、この「つなげるシート」を通常の学級や特別支援教室等でも活用していけるよう、より実態を的確に捉えられるようにしていくことが求められる。特別支援学級以外での活用を進め、実践事例を増やしていけるようにする。

令和7年度 教育研究員名簿

特別支援学校等 知的障害教育

学 校 名	職 名	氏 名
北 区 立 滝 野 川 小 学 校	主 任 教 諭	佐 藤 歩
青 梅 市 立 第 一 小 学 校	主 任 教 諭	上 羽 直 子
町 田 市 立 小 山 田 南 小 学 校	主 任 教 諭	◎杉 村 祥一朗
小 平 市 立 小 平 第 四 小 学 校	主 任 教 諭	笹 本 貴 子
小 平 市 立 小 平 第 五 小 学 校	教 諭	久 良 木 遥 菜
福 生 市 立 福 生 第 二 小 学 校	主 任 教 諭	松 田 花 菜
西 東 京 市 立 ひ ば り が 丘 中 学 校	主 任 教 諭	○小 暮 明 美

◎世話人 ○副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部特別支援教育指導課
指導主事 飯島 雄貴

令和7年度
教育研究員研究報告書
特別支援学校等・知的障害教育

令和8年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6869